

# 林檎停通信 NO.146 2014.10.6

長野県北安曇郡 町田 登・幸子

今年の天候はシンクイムシにとって大発生条件となりました。ワインをいれたペットボトル対策も無駄な抵抗となり、またまた殺虫剤の威力をみせつけられた。虫もいてあたりまえの自然界だと私たちは考えておりますが、さすがの現状には頭をひねった。9月の下旬から各種の中間品種をお届けしておりますが、たぶん虫喰いりんごもあったと思います。ダンボールに詰められるだけ入れておりますので、その点を御容赦して下さい。これからもそうですが、あまりにもひどいと思われる方は一報して下さい。現場主任の私は畑に出るたびにダニに刺されて痒い痒いの日々をおくっています。こんな状況ですから、今年もまたジュースが沢山できそうなのでよろしくお祈りします。尚、予約をいただいたプルーンはすべてが虫にやられました。

さて、あたりまえの栽培方法をしている方たちは今どんな作業をしているかと思われませんか。それは果実に満遍なく陽があたって色が着くようにと葉摘みという作業です。私などは葉の影があつてなんでいけないのだと思っておりますが、それは市場では受け入れられないのです。作る人も食べる人も価値観を変えなければおそらく政治が変化してもこの作業は続いていくでしょうね。みてくれ、みえ、化粧の文化かもしれませんが、そのうち着色剤があたりまえに使われるようになればと危惧しております。

そういう私も山ノ内町の林檎園に出張してこんなたいくつな作業をしています。親たちが築きあげてきたお客様との関係を簡単に切り捨てるわけにもいかないので、タイの国の労働者をお願いして大きな矛盾と承知しつつ作業にあたっています。この先の若い人のために「グラニースミス」や「れら」を接木して集団の中でも農薬をそう使用しなくてもよい品種構成になりつつありますが、樹を観察しながら今年はその使用量を3割ほどおとしました。

林檎停のりんご園の樹には今半分も葉が付いていません。弱い品種になると一枚も付いていない樹もあります。だが、グラニースミスやイギリスの古い品種はほとんど葉が落ちていません。この差はここに来られた方にもすぐ理解できることです。殺菌剤を多用しなければ葉摘みという作業は必要ないということもです。これも技術のうちだと人様に申しておりますが、不安はいつでもついて回っています。早期の落葉は次年度の花芽分化に影響を及ぼし実を着けることはありません。毎年3割くらいはそんなことの繰り返しで、りんごの樹にも休息が必要なんだと冗談とも言えない言葉を呑み込んでいます。

当園は山際の孤立したところにありますから他所でりんご栽培をしている人には目につきませんので人様の対応に落ち込むこともありません。各地で無農薬栽培を目指している方々の隣近所との関係の御苦労はよくわかりますが、あまり無理せず既成の品種にこだわらず自己実現できるようにと、これからの若い方に期待したいものです。もちろんそんなりんごを食べたいと思う若い人にもです。

地湧社から出版されている「じねん 36.5°」が届いた。そこに私たちが親しくさせていただいているタンカ師のミエ姉さんが寄稿している。「2002年、母の介護と看取りをすませ、この山での自給自足の生活がはじまり、まさに山の狸のように経済にたよらず——— こんな美しい過疎の

限界集落のできごとです。思いあまって部落ごとの村政会議へ出席し、基地局のことを聞いたのですが、村長自身が携帯がつかないで、自宅近所に基地局を建ててもらったという答えでした。沖縄の新城さんのやっている「携帯電話基地局問題を知らせる会」の小冊子を取りよせ、近所に配ったら、「あんなものを配ってはいけません。なにも知らない人たちを恐怖に落とし入れますよ」今まで山の狸のように静かに黙って生活していたのですが、この問題を表に出したら、今度は疫病神です。」

沈黙や無知は推進や加担です。首長たる発言に私も憤りを感じます。こうゆう村や町は日本中どのくらいあるのでしょうか。安倍政権が地方創生とかいうビジョンを持ち出して人気とりに躍起ですが、それは可能なのでしょうか。一過性のものに税金を注ぎ込んでも意味がありません。何々ブランドと言ってもすぐに真似のできるものばかりです。必要ないものを作りあげてきたことを反省しなければいけないはずなのに。これでもかこれでもかと経済を追い続ける限り不幸は増すばかりです。ミエ姉さん、もっともっと発信して下さい。

百江さんが亡くなってから半年が過ぎた。幸子さんも看護から解放されて、あたりまえの生活にようやく慣れたようです。ところが今度は彼女のいちばん上の姉さんが亡くなった。あぶないと連絡がきたから急いで病院へ行った。彼女がかけた言葉に頷いた。旦那さんを早く亡くしても気丈な女性だった。もともと細身の体はもっともっと小さくなりベットに横たわっていた。葬儀での祭壇には生花がいっぱい飾られて、その中にこれ以上ないという笑顔の写真があった。こんなものです私の人生という顔でした。

百江さんとは言う、葬儀用の写真を自分でダンスの中に用意してあった。つんとすまして、こんなはずじゃなかったよ私の人生はと、バカ息子をみつめているような感じです。物理的なこともあって家族葬にしたから生花もわずかばかりで見栄多き彼女にはきつとももの足りなかったであろう。お二人共、高齢だったから、ありがとう、御苦労様でしたと言葉をしめよう。

町田さあーん、ブタをなんとかしてくれようーと、田んぼで稲刈りをしている人から声がかかった。家のブタじゃないよと言いながらロープを持って追った。速い速い、いつも繋がれているそいつに、プーちゃんと言えやすぐ寄ってくるのに、自由を得たとばかりに逃げ回るのだ。投げ縄などしたことがないから仲々そいつに届かない。シュウちゃん(となりのそいつの飼い主、グラニースミスのような美しくたくましい奥さん)、こいつこんなに大きくなってミニブタじゃないじゃないかと言いながらもやっとな御用とした。老人はふうっと息を吸いにやりと笑った。こいつは食卓にのぼる日はいつなのかなあ。不謹慎な思いを巡らしていたら、まてよと急にテッちゃんたち5人の子供たちの顔が浮かんだ。とても可愛がっているのにごめんねと唾を飲んだ。

先日には畑の栗を熊が食べにきた。サルはりんごを食べに、狸も狐も畑を走る。こんな牧歌的な山間に住んでいる私たちは永く生きられるかもとその老人も牧歌的です。でも山には今年樹の実がない。飢えは戦争を引き起こす。人間様の経済至上主義は格差を生みこれまた戦争を引き起こす。どこかの国の王様は石油太りだ。大君の周囲に居る人は支度金一億円もいただいて神の元に嫁入りだ。私たち大衆が無頓着であればこれ幸いと権力はつき走る。ピッグボーイなどなんのその。

台風18号の風と雨の行方を案じながらこの原稿を書いた。一年の仕事をふいにする事態にもなりかねない。自然災害は予期できるものばかりではないと、たとえそれが予期できたとしても手のうちようもないこともある。そのときのために税金は使いましょう。商業化したショー化したオリンピックなどは既存の施設でやればよい。いちばん怖いのは欲望のつまっている生きた人間だ。原発はそれを物語っている。ささやかな願いです。雨よ風よ今日はもう静かにしてくれないかです。

あそびにおいで下さい。お待ちしております。

町田さんのグラニースミス、入荷中ですよ～!!

